

# 中州で生まれる祭りの明かり

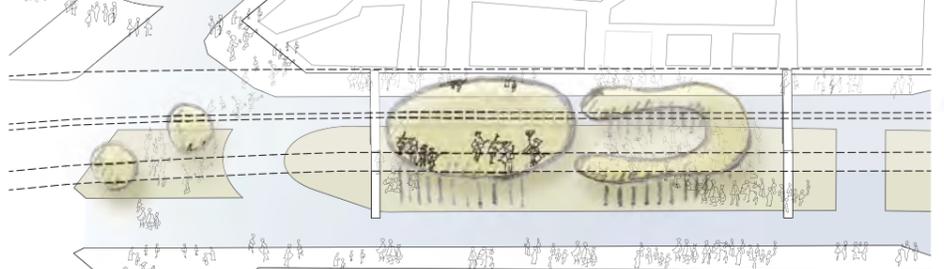
**中州** 本来川の中にあり、堆積土砂の積み固まった陸地。氾濫などの天候によって左右される土地は、計画的な土地利用の外にあり、取り残された土地だった。江戸時代においては、その場所は、人々の息抜き・遊びの場へと変容し、**祭りの時期には見世物・芝居小屋が立ち並ぶ仮の娯楽エリア**として姿を変えていく。**余白のない都市のなかで考え出された市民のための都市空間**である。

高架下に立つてみる。

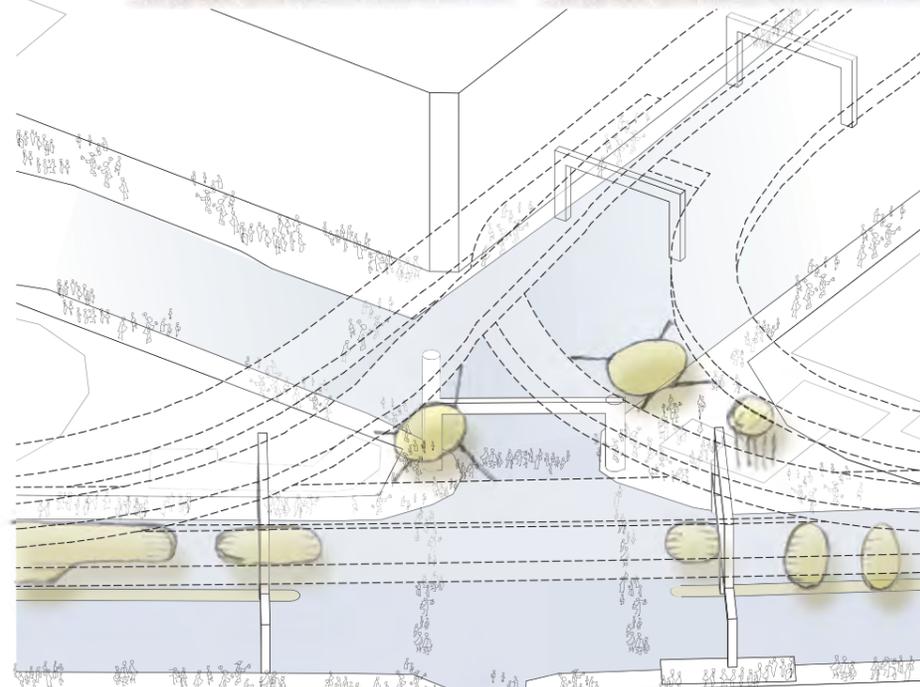
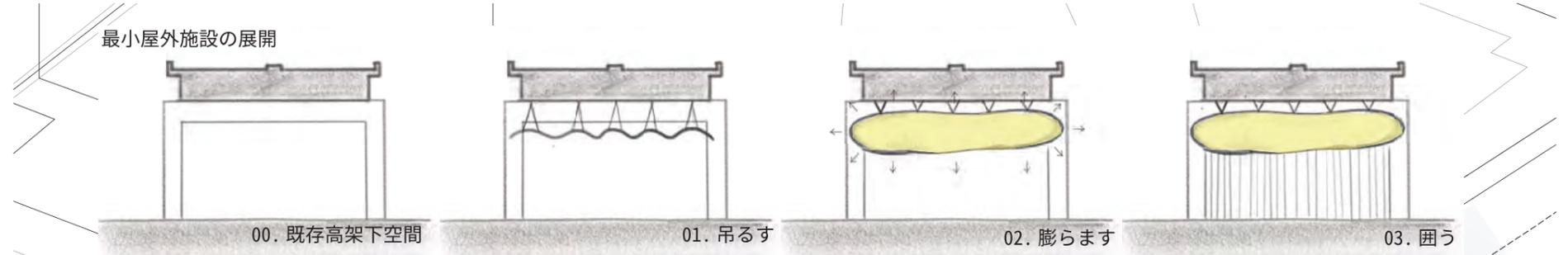
ふと**高架下が川中に取り残された中州**に思えてくる。東西を大きく分断する通りは、速さを変える水の流れ。人々が向こう岸へ渡ろうと横断歩道で待っている。そうすると、高架下でパフォーマンスやダンスでもやるのに興味をわいてくる。

**最小屋外文化複合施設** 豊島区で主催する様々な文化イベント（国際アート・カルチャー都市構想）の一部として**屋外劇場・展示・レセプション機能**の計画を高架下に行う。

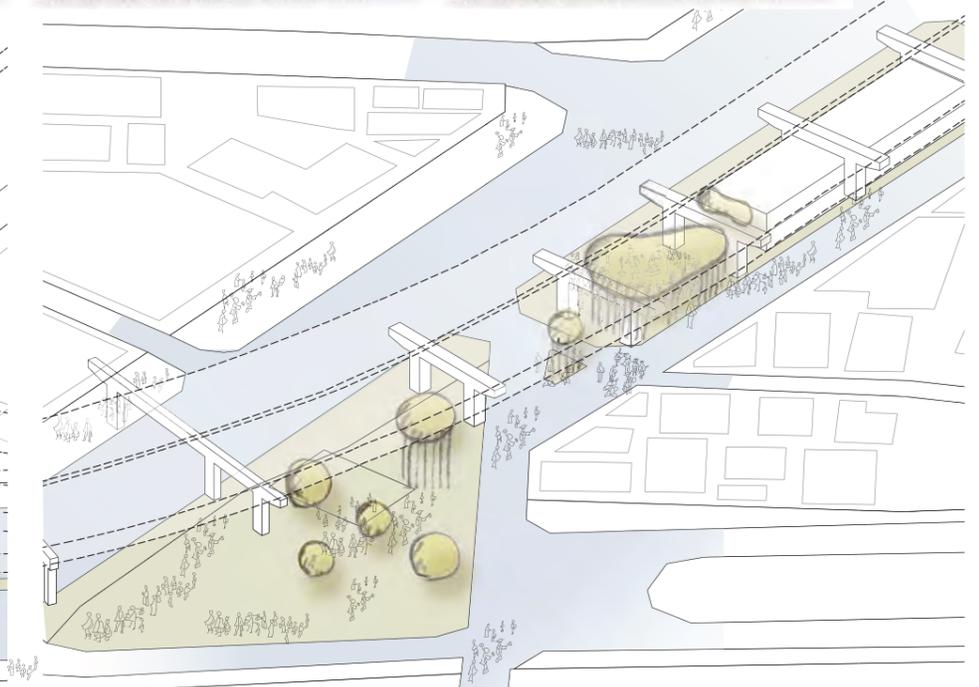
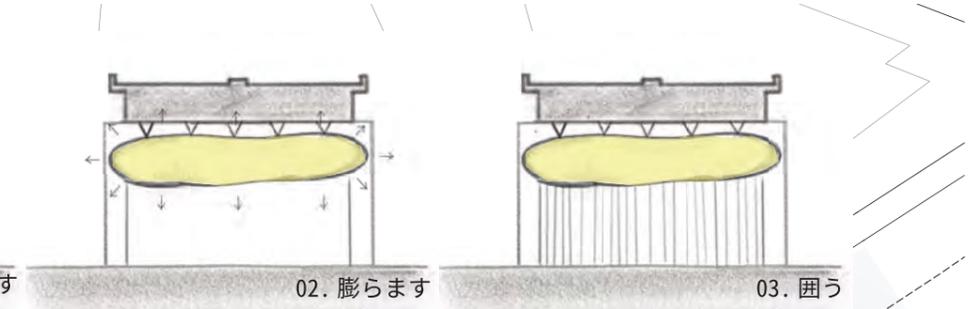
高架下には屋根があり、開かれた空間は大きな特徴である。それゆえ**挿入する設備は最小になる**。活動するために必要なものは、**明かりのみ**。昼でも暗いこの場所に明かりをともし、祭りの合図をする。高架下中州が仮の文化施設となり、**町中の人々すべてが参加者**となる。



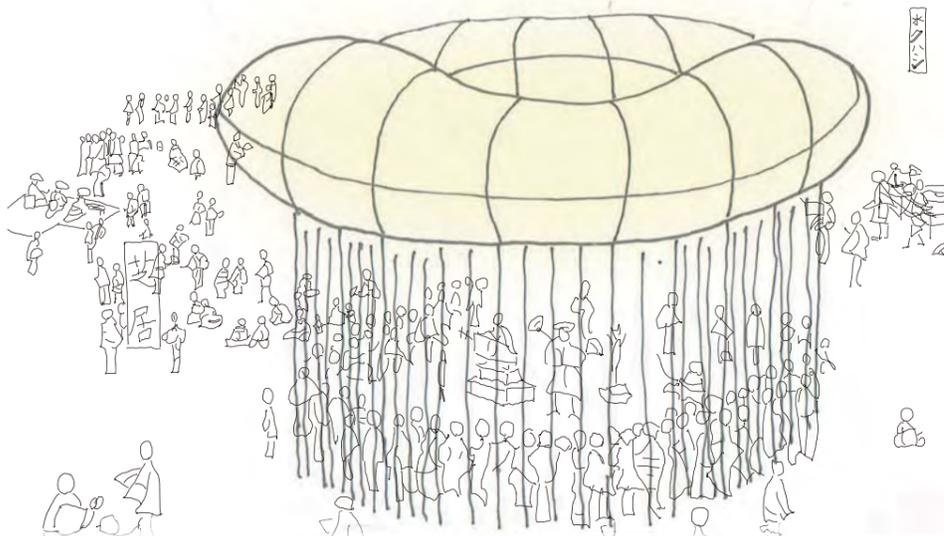
**A** エリア



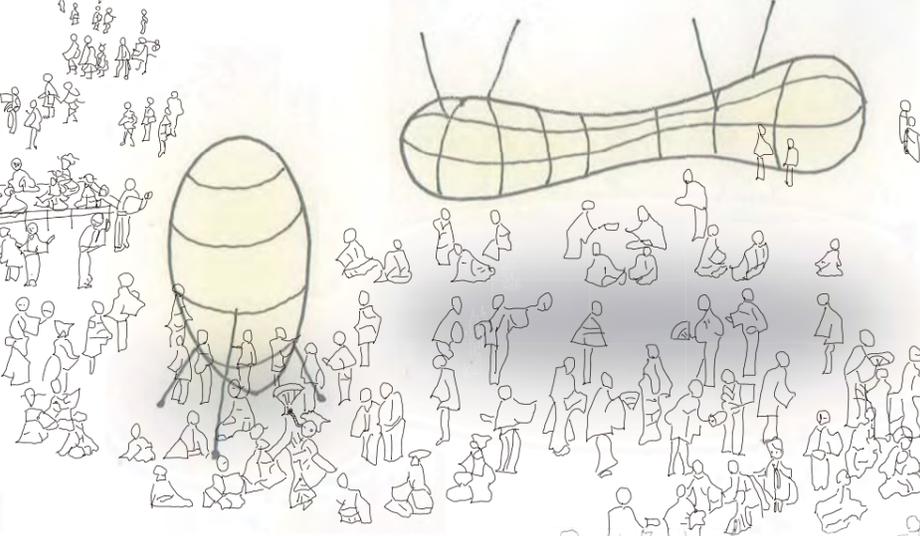
**B** エリア



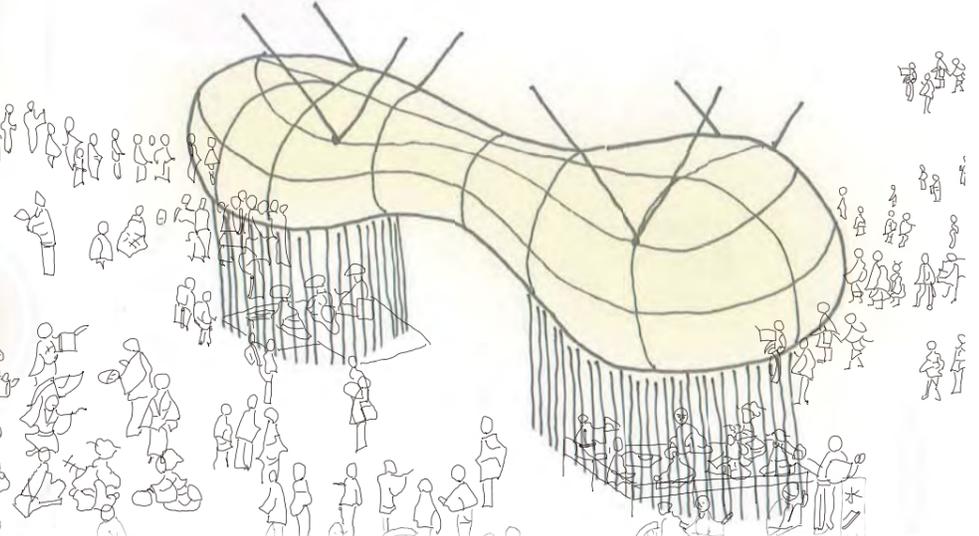
**C** エリア



**屋外舞台・展示場**  
形式化され閉じ込められた芸術プログラムを今一度街の中に放り出す。**芸術が担ってきたコミュニケーション機能を箱の中から屋外へ展開**する。街全体が参加し、楽しめる仕掛けを作ることによって**市民のためのプログラム**へと更に近づく。



**屋外芸術ディスプレイ**  
文化イベント時の**施設・案内サインやメディアアートの展示**を行う。じめじめとした高架下が新たな街の魅力となる。



**屋外レセプションカウンター**  
文化イベント時の**レセプションカウンター・インフォメーションセンター**等が屋外の高架下に点在する。人々が集り、情報が発信され、**イベントの明るさ・温度が街全体へ広がってゆく**。